

令和4年1月12日

報道機関 各位

第8回盛岡劇場「劇団モリオカ市民」公演
実行委員会会長 高村 明彦
事務局長(盛岡劇場館長) 後藤 信夫

第8回「劇団モリオカ市民」公演 制作発表について（ご案内）

時下 益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素は、当事業に対し格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、私どもはこのたび第8回「劇団モリオカ市民」公演を実施いたします。

盛岡にしかない題材として、第1回から第3回公演は「冷麺・じゃじゃ麺・わんこそば」の盛岡三大麺を取り上げ、第4回から第6回までは「あの年の盛岡」として、明治・昭和・平成と過去に3度も大津波を経験している岩手の体験や歴史的背景を振り返りました。そして、第7回では、「岩手公園(愛称：盛岡城跡公園)」を取り上げ、史実を基に舞台化しました。

開館30周年記念公演となる第8回は、これまで上演した作品の中でも盛岡にしかない題材で、年齢を問わず盛岡市民から人気が高い「じゃじゃ麺」を取り上げることとしました。第2回公演で好評を博した『わたしのじゃじゃ麺』を新版として上演し、将来にわたり伝えていく当地ならではの作品を目指します。

つきましては、下記のとおり制作発表を行いますので、ご多用のところ恐縮ですが、取材方よろしくお願い申し上げます。

記

- 1 日時 令和4年1月19日（水）午前11時から
- 2 会場 盛岡劇場メインホール ホワイエ
- 3 内容 ・実行委員会会長挨拶
・作品紹介 ほか
- 4 主な出席者（予定） 高村明彦（実行委員会会長／演出担当）
金野万里（実行委員会副会長）
くらもちひろゆき（実行委員／脚本・演出担当）ほか
- 5 その他 ・公演概要等につきましては、別添の資料をご覧ください。

【お問い合わせ】

実行委員会事務局(盛岡劇場)

田口 誠

TEL 622-2258

開館30周年記念
第8回 盛岡劇場「劇団モリオカ市民」公演

「新版 わたしのじゃじゃ麺」

企画概要



～モリオカの人、
モリオカの人による、
モリオカの人のための、
演劇の広場～
「劇団モリオカ市民」

◎事業の名称とシンボルマークの由来

盛岡に徹底的にこだわる演劇公演を上演する、その公演限りの〈市民劇団〉※という意味を込めて、**盛岡劇場「劇団モリオカ市民」公演**を事業の名称としております。「劇団」の文字の中には、よく見るとカタカナの「モリオカ」があります。盛岡と演劇との浅からぬ因縁を感じさせるこの文字を、シンボルマークのデザインとしました。（※盛岡在住者以外も参加可能）

1 「劇団モリオカ市民」公演について

本事業は、平成18年度にスタートしました。アマチュア劇団が20以上も存在する「演劇のまち・盛岡」の特性を生かし、盛岡ならではの演劇作品を演劇以外の異分野異業種の方々を巻き込んで創り上げる企画です。

盛岡にしかない題材による地元劇作家の書き下ろし作品を、市民公募のキャスト・スタッフと地元演劇人、盛岡劇場との協働で上演しています。2年に1度の公演とし、あいだの年は次の公演の企画・準備期間とすることで、地元劇団の舞台製作と無理なく共存できるスタイルを取っています。

2 第1シリーズ：「盛岡三大麺」3部作について

盛岡ならではのテーマとしてまずは盛岡の三大麺に着目し、平成19年2月に上演した第1回公演では、5人の作家の書き下ろしオムニバス作品「冷麺で恋をして」を上演、第2回公演(21年2月)では、じゃじゃ麺創始者の一代記「わたしのじゃじゃ麺」、さらに第3回公演(23年2月)では、わんこそば店の給仕を主人公にした「わんこそばの降る街」を上演し、そのユニークな作劇スタイルで全国的な注目を集めました。

3 第2シリーズ：「あの年の盛岡」3部作について

第3回公演(平成23年2月26日・27日)終了直後の3月11日に東日本大震災が発生、岩手県沿岸を津波が襲い、大きな被害をもたらしました。新シリーズの準備会では、次のテーマは、震災や大津波に対する県人としての思いを表現したいという意見で一致。

第2期・3部作の共通タイトルは「あの年の盛岡」とし、明治、昭和、平成と過去に3度も大津波を経験している岩手の体験や歴史的背景を振り返り、その年の盛岡をさまざまな角度から描くことで、自分たちの暮らす地域と人をより鮮明に浮かびあがらせ、地域に脈々と続く大切なものを多くの人と共有し発信しました。

4 「MORIOKA CHRONICLE」について

「あの年の盛岡」シリーズが完結し、準備会は3部作にこだわらず、ある時期の盛岡の特徴的な事柄に着目する「MORIOKA CHRONICLE」をメインテーマとしました。「盛岡にしかない題材」について意見交換を行った結果、第7回は岩手公園(盛岡城跡公園)を取り上げ、「岩手公園ものがたり」を上演。1906年に開園してから110年以上経過した今でも盛岡市民に愛され続けている岩手公園。盛岡城址かつ公園として整備されるに至った契機や経緯、公園整備に尽力した人々の様子のほか開園後の賑わいなど史実を基に舞台化しました。

5 「新版 わたしのじゃじゃ麺」について

盛岡劇場開館30周年記念の公演となる第8回公演の準備会でも「MORIOKA CHRONICLE」をメインテーマに協議し、これまで上演した作品の中でも盛岡にしかない題材で、年齢を問わず盛岡市民から人気が高い「じゃじゃ麺」を取り上げることとしました。好評を博した『わたしのじゃじゃ麺』の新版を「MORIOKA CHRONICLE」番外編として上演します。

「じゃじゃ麺」は、12年前に上演した当時よりも、さらに盛岡を代表するコンテンツの一つとして進化を遂げています。盛岡市民のソウルフードとして愛される食べ物をキーワードに、若い世代の地元演劇人や新たな参加者を取り込んで、新体制での公演を目指します。『新版』としての舞台化によって、地元にこだわり抜いたオリジナル作品としてブラッシュアップし、将来にわたり伝えていく当地ならではの作品づくりを目指します。併せて、全国的に活躍する振付家によるワークショップなどの関連企画も取り入れ、新たな角度から作品の魅力を高めるような取り組みも行います。

6 事業内容

演目：「新版 わたしのじゃじゃ麺」

脚本：くらもちひろゆき、遠藤雄史、高村明彦

専任スタッフ（演出、舞台監督、音響、照明ほか各プランナー等）：地元演劇関係者
出演者、スタッフ：一般公募

7 実施体制

主催 第8回盛岡劇場「劇団モリオカ市民」公演実行委員会、盛岡演劇協会、
公益財団法人盛岡市文化振興事業団

共催 盛岡市、盛岡市教育委員会

後援 地元報道各社など

実行委員会体制 別紙委員会名簿のとおり

実行委員会事務局 公益財団法人盛岡市文化振興事業団 盛岡劇場